

PART 2 投信の説明力をアップさせるポイント 23

マーケットに関する説明をいまどのように行えばいいか？



投信の説明では、マーケットに関する説明も欠かせない。どんな情報をどう収集し、どう伝えるかについて、お客様に伝えたい各株式市場のトピックと合わせ紹介する。

15
/23

マーケットへの理解を深めてもらうための説明方法

IMF資料でマクロの動きを伝え
その後に地域・国別の動きを示す

お客様にマーケットの動きについて説明する際、世界全体の動きを示すものとしておすすりめしたいのが、IMF（国際通貨基金）が四半期毎に発表している「世界経済見通し」だ。

世界全体の動きを伝える際には、運用会社のレポートを使用しているという方も少なくないだろう。ただ私見だが、運用会社によってはやや楽観傾向への偏りを感じることもある。その点、IMFの見通しは、世界経済に与える影響が大きく、客観性の点で優れているため、筆者はこちらを優先して使うようにしている。

説明の流れとしては、この世界経済見通しでマクロの動きを客観

的に伝え、その後に地域・国別の状況や、各セクターの動きなどを示していく。こうすることで、お客様が「木を見て森を見ず」の状況に陥ることを防げると考えている。

IMFの世界経済見通しでマクロの動きを伝える際に大切なのは成長率の数字などではなく、「方向感」だ。前回、約3ヵ月前に発表された数字から上方修正されているのか、下方修正されているのか。特に変動幅が大きい場合や、特定の国だけが全体の動きと異なっているような場合には、その要因はなんなのか。こうした点について、お客様にしっかりと説明を行うことができるよう準備したい。